

6月5日第一回地域の交流会開催

ここにお住まいの方々と、お話を楽しませませんか？

当NPO法人が平成二二年度に開始しました「エリアマネジメント連絡会議」では、再開発エリアの各マンションの方々に御出席いただき、地域のこれからのまちづくりの方向性等を議論してまいります。

先日、会議で「地域主体のまちづくりを進めていくには、住民同士の交流が必要」との意見が出されました。確かに、今後地域の様々な課題を解決していくには、連絡会議のメンバーだけでは到底人材が足りませんので、少しずつ仲間を増やしていく必要があります。また、住民同士の交流促進は、豊かな生活を営むための大切な要素ですし、エリアマネジメント連絡会議が目指す大きな目標です！

そこで今回、こうしたご意見を基に、地域の交流会を開催することになりました。今回はテーマを三つに絞り、前・後半の二部制にして、みなさんがコミュニケーションを楽しめる会としました。

前半は、まずNPO法人の活動目的や事業の概要などを説明いたしますので、少しでもエリアマネジメント（地域のまちづくり活動）に親しんでいただければと思います。その後、現在連絡会議で議論している民生委員・児童員の方についてみなさんと議論します。そうしたことで、地域の支えあいから生まれるコミュニケーション形成のあり方をみなさんと共有できればと思います。

後半は、各種サークル活動の紹介です。地域ですぐに気の合う仲間とサークル活動を進めている方々がいらつしやいますので、活動内容をご紹介いただき、一緒に活動したい方や、これから新たなサークルを立ち上げたいと思われている方などが気軽に話してお話していただける場にします。ここから新しいサークル活動が芽生えれば、素敵だと思います！

ご興味のある方は、今からでも間に合いますので事務局までぜひご連絡ください。

日時：平成二二年六月五日 一三：三〇～一五：三〇
場所：NPO法人活動スペース（リエトプラザ） お問合せ：事務局まで 〇四四（四三三）九一八〇

多摩川のジャブジャブ生き物調べ 四月二十九日実施

第一面「小杉さんぽ」に紹介の多摩川は自然豊かな川です。

当NPOでは、こどもたちにも、安全に楽しく、多摩川に親しんでもらうために、一昨年より「とどろき水辺の楽校」に合流して「多摩川ジャブジャブ遊び・野草観察」に参加しています。

好天に恵まれた四月二十九日、「こども探検隊」



こんなに沢山生き物がいますよ

二 名弱は、講師から多摩川の土手に生える野草の数々を実地に教えてもらい、食べられる野草・その時期など、子供だけでなく大人も真剣に学んでいました。

安全管理担当に見守られながら、水浸しになって網を片手にヌマチチブ・鯉・手長エビ・モズクガニな

捕った生き物は丁寧に川に戻し、子供たちは命の大切さを自然に覚え、大喜びで体を動かして、多摩川の自然を満喫した後で、いよいよ採取した野草の天ぷらで昼食です。これが大変美味しく、子供も大人もお代わりの列を作りました。

6月のこども探検隊・ザリガニ釣りとお和館見学

高層マンションの直ぐ近くにあるお和館を見学し、その横を流れる二ヶ領用水で、ザリガニ釣りに挑戦します。

日時 六月一日(日) 一時～四時
集合 リエトプラザ 午前一時
持物 お弁当 お茶等
参加費 一人百円
申込・お問合せ 四三三一九一八

川崎市は昭和五十七年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。平和館は、戦争体験を伝えながら、市民の平和な暮らしを考える拠点に、と緑に囲まれた二ヶ領用水横に建設



去年はたくさんザリガニが釣れました

され、展示や関連施設を整えています。一見の価値があるかと思えます。

多摩川上流・稲毛から川崎を流れ多摩川に戻る二ヶ領用水にも自然があります。平和館を見学した後、その自然に触れて、ゆったりと、平和な生活を楽しもうという企画です。

平和館テラスでの楽しい昼食もあります。

中原街道20

昭和四六年に発行された「中原街道小杉から久末までをたずねて」を参考とした歴史研究を基礎に掲載しています

大目様と西明寺（小杉御殿）

カギの道に面した 龍宿山西明寺

西明寺の参道の入口に、三つの石塔があります。

これらはどれも江戸時代に建てられ、石に刻まれた文字のくずれた様子から、長い年月、この地に建てていたことがわかります。

一番大きい石塔は、上部に「大日如来」を乗せ、力強い文字で、「大師遍照金剛」と書かれており、大日如来さまは、いつまでも幸せを与えるという人々の信心を示しています。

太い文字のまわりには現在も、小杉にある姓や、亡くなった人の名などが、ぎっしり刻まれています。

石塔の裏には「十方檀那滅罪生善」という仏教の言葉で、「大日如来を信ずるすべての者が、仏の力で、今ある罪や不幸をなくし、これからずっと幸せに生きられるように」という願いが書かれています。

江戸時代の終り頃になると、お寺参りをする人々が



参道入口の石塔

増えましたが、この石塔を建てた人々も「四国八十八処」とあるように、四国の八十八のお寺参りをしたのしょう。

お寺参りをしたあとに、先祖をなぐさめ、子供達の幸せを祈って建てられた石碑を「供養塔」と言いますが、土地の人々は、この石塔を特に大目様と呼んで親しんでいます。

この石塔の裏にも供養塔があり、両方とも、天保時代に建てられたものです。参道の奥に見える西明寺の本殿は、大正十四年に新しく建てられたものですが、墓地には、今も小杉に住む人々の、そつとう昔の先祖のりつばな墓が数多くあつて、「歴史の古さ」を感じさせます。

西明寺は、御殿ができてまもなく、今の有馬から移ってきた古い歴史を持っていると伝えられています。



龍宿山西明寺の長い参道